

見直しのポイント

➤ 新型コロナウイルス感染者の診療における入院優先度参考スコアの見直し … 3～5ページ

- ・オミクロン株下における患者の病態や新型コロナワクチン接種歴等に即して**点数を見直す**。
- ・「5点以上は入院が望ましい」を、「**5点以上の場合には要経過観察患者**」（入院、宿泊療養施設入所、往診等）とする。

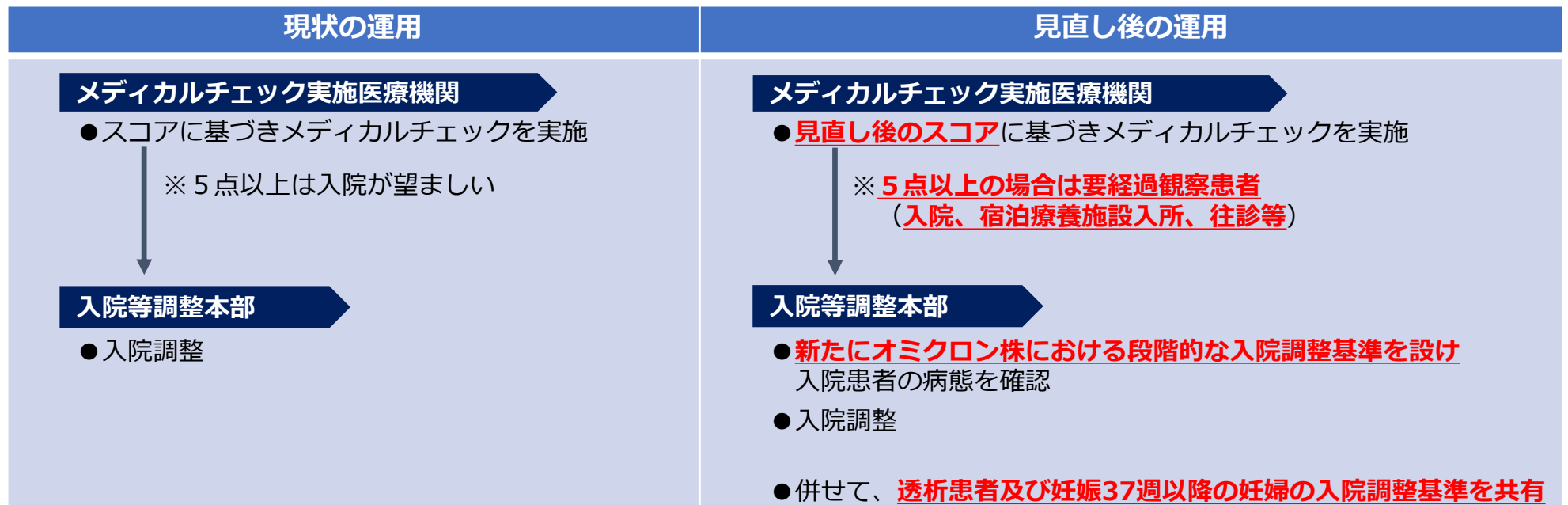
➤ オミクロン株における段階的な入院調整基準の新設 … 6ページ

- ・「茨城県コロナ調整本部 活動状況シグナル」により入院調整を行っているが、**(1) で要経過観察患者となった患者のうち、新たに入院適否を判断する際に考慮する項目※を新設**し、本シグナルの状況に応じて、段階的に入院調整を行う。

※考慮する項目：「青（注意）」…肺炎等を疑う症状、酸素飽和度、肺炎像、複数の重症化リスク因子
：「黄（警戒）」…肺炎等を疑う症状、酸素飽和度、肺炎像
：「赤（緊急事態）」…肺炎等を疑う症状、酸素飽和度

➤ 透析患者及び妊娠37週以降の妊婦の入院調整基準の共有 … 7ページ

- ・先般、「茨城透析医災害対策連絡協議会」の御協力のもと、「**茨城県コロナ陽性透析患者の初療判断目安**」を整理いただき、外来維持透析を実施すべく県内透析医療機関間で共有したが、入院受入医療機関間においても本目安を共有する。
- ・**妊娠37週以降の妊婦の入院受入**について、予め入院が必要となる場合・必要でない場合を明示する。



新型コロナウイルス感染者の診療における 要経過観察患者診断のためのスコア（案）

- 本スコアを参考として活用しながら、点数が高い患者は要経過観察者として、抗ウイルス薬の投与や、症状悪化時に適切に対応（入院、宿泊施設療養、往診等）できるようにする。

【運用主体】 **メディカルチェックを行う医療機関 等**

【判断基準の目安】 **5点以上の場合は要経過観察患者と診断する。**

臨床的判断項目		スコア	臨床的判断項目		スコア
(1)	70歳以上	3	(4)	ハイリスク因子1項目あたり	
	60～69歳	2		・透析※2	5
(2)	無症状	-1		・妊娠37週以降の妊婦※3	5
(3)	酸素飽和度 94%以下	6		・糖尿病	2
	ワクチン未接種	1		・慢性呼吸器疾患	2
	単純レントゲンにて肺炎像			・慢性心疾患	2
	・肺炎像なし	0		・免疫抑制剤使用(ステロイドを含む)	2
	・片側1/2以下	2		・悪性腫瘍に罹患し治療中	2
	・片側1/2以上	4		・骨髄移植・末梢血幹細胞移植、 原発性免疫不全、HIV、臓器移植後	2
	・両側	4		・肥満(≥BMI 30)または100kg以上	2
	CTにて肺炎像			・肥満(25≤BMI <30)	1
	・肺炎像なし	0		・コントロール不良の高血圧	1
	・病変が限局	2		・高度の腎機能障害	2
・病変が広範※1	4				

※1 広範と判断する参考所見：陰影が正常肺野より大きなスライスや、淡い影が6個以上等がある。

※2 透析外来で対応が可能であれば必ずしも入院適応とはならない。

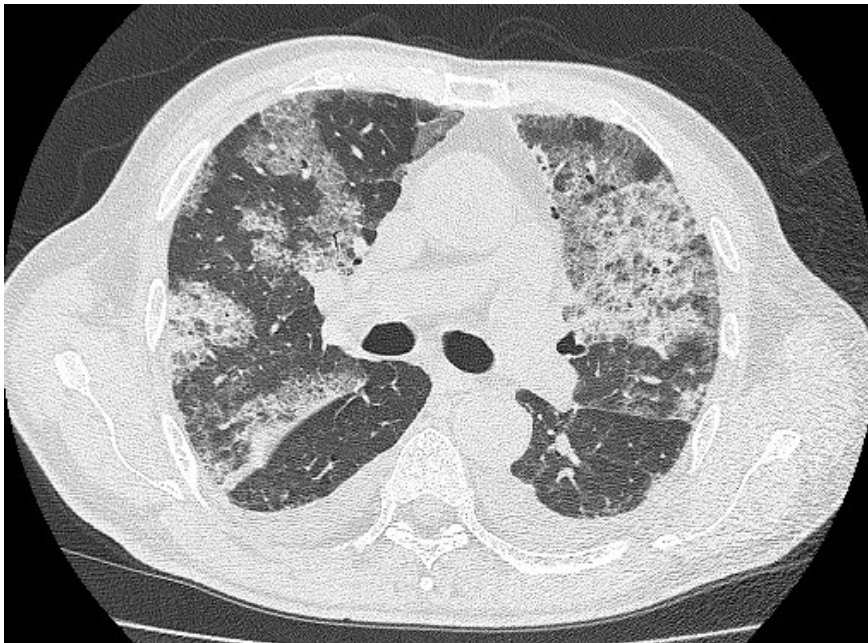
※3 産科的処置が必要な場合のバックアップ体制ができていれば必ずしも入院適応とはならない。

新型コロナウイルス感染者の診療における 要経過観察患者診断のためのスコア (案)

- 問診時に行う内容

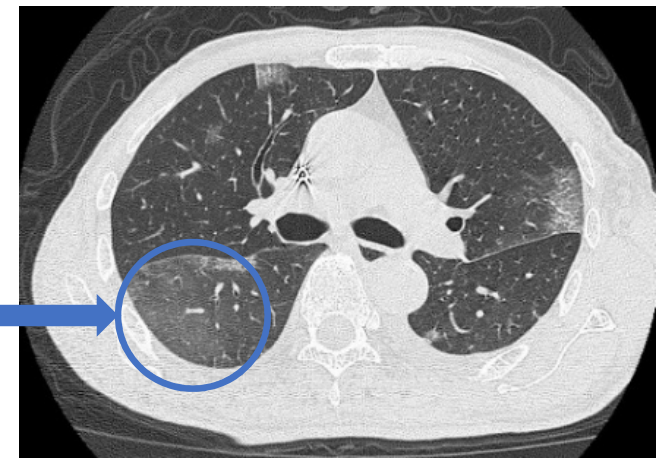
症状、発症日、既往歴、注意すべき併存症の有無(スコア参照)、内服薬(免疫抑制剤)、妊娠の有無、アレルギーの有無

- ※2 病変が広範な肺炎像の参考所見



← 陰影が正常肺野より大きなスライスがある。

淡い影の参考所見



(参考) 現在のスコア

【新型コロナウイルス感染者の診療における入院優先度参考スコア ver3】

- 本スコアは、医療資源の適切な配分を行い、真に入院が必要な患者に医療を提供できる体制を構築するために参考とするものである。
- 本スコアを参考として活用しながら、入院の可否を総合的に判断する。

【メディカルチェック時に行う4項目】

必須項目		参考項目（個別の事案に応じて実施）	
①対面による問診	②酸素飽和度の測定	③血液検査	④画像検査

【運用主体】 メディカルチェックを行う医療機関 等
 【入院判断基準の目安】 5点以上は入院が望ましい

臨床的判断項目		スコア	臨床的判断項目		スコア
(1)	呼吸困難の症状が中等症以上※1	入院	(5)	ハイリスク因子1項目あたり	
	重症感(全身倦怠感、水分・食事がとれない等)	入院		・糖尿病	2
	透析	入院		・慢性呼吸器疾患	2
	妊娠37週以降の妊婦	入院		・慢性心疾患	2
	HOT導入患者	入院		・免疫抑制剤使用(ステロイドを含む)	2
(2)	70歳以上	3		・悪性腫瘍に罹患し治療中	2
	60～69歳	2		・骨髄移植・末梢血幹細胞移植、 原発性免疫不全、HIV、臓器移植後	2
(3)	無症状	-1		・肥満(≥BMI 30)または100kg以上	2
(4)	酸素飽和度 94%以下	6		・肥満(25≤BMI<30)	1
	単純レントゲンにて肺炎像			・コントロール不良の高血圧	1
	・肺炎像なし	0	・高度の腎機能障害	2	
	・片側1/2以下	2			
	・片側1/2以上	4			
	・両側	4			
	CTにて肺炎像				
	・肺炎像なし	0			
・病変が限局	2				
・病変が広範※2	4				

※1 横になれない、座らないと息ができない、句単位・単語単位の話し方、ゼーゼーとしている、日常生活で少し動くとき息が上がる等の症状がある

※2 広範と判断する参考所見：陰影が正常肺野より大きなスライスや、淡い影が6個以上等がある。

オミクロン株における段階的な入院調整基準（案）

- 診察した医師は、現在の臨床症状により入院の要否を総合的に判断する。
- 入院調整本部は、上記医師の判断を踏まえるとともに、「茨城県コロナ調整本部 活動状況シグナル」の段階に応じて、以下の項目を考慮し、入院の要否を決定する。
- なお、透析患者、妊娠37週以降の妊婦に関しては別添「透析患者及び妊娠37週以降の妊婦の入院調整基準」を参照する。

実施 タイミング	入院優先度を判断する基準として考慮する項目			
活動状況 シグナル	肺炎等を疑う 症状※1	酸素飽和度	肺炎像	複数の重症化 リスク因子※2
青	●	●	●	●
黄	●	●	●	
赤	●	●		

※1 横になれない、座らないと息ができない、句単位・単語単位の話し方、ゼーゼーとしている、日常生活中で少し動くと息が上がる、脱水等の症状がある。

※2 ワクチン未接種、慢性腎臓病、悪性腫瘍、免疫抑制剤の長期使用や固形臓器移植後等の免疫低下状態、肥満（BMI 30以上）等

(別添) 透析患者及び妊娠37週以降の妊婦の入院調整基準

➤ 透析患者の入院調整基準

重症度 (診療の手引き参照)	酸素飽和度	自立度	療養先	連絡先
無症状	≥96%	自立	自宅	維持透析機関⇔各保健所と連絡
		要介助	入院検討	維持透析機関⇔各保健所→入院調整本部で適応検討
軽症		自立	自宅	維持透析機関⇔各保健所と連絡
		要介助	入院検討	維持透析機関⇔各保健所→入院調整本部で適応検討
中等症I	93<SpO ₂ 96%	不問		
中等症II	≤93%			
重症				

注1 透析患者は基本的に中等症以上であるが、蔓延期は厚労省診療手引きの重症度を用いる。

注2 自宅療養対象者であってもコントロール不良の重症化リスクがある場合は入院調整も検討する。

注3 自宅ならびに入院検討中で自宅待機期間中の透析については、日本透析医会等の示す方式に則り、万全なPPEのもと、時間的、空間的距離を保ち実施すること

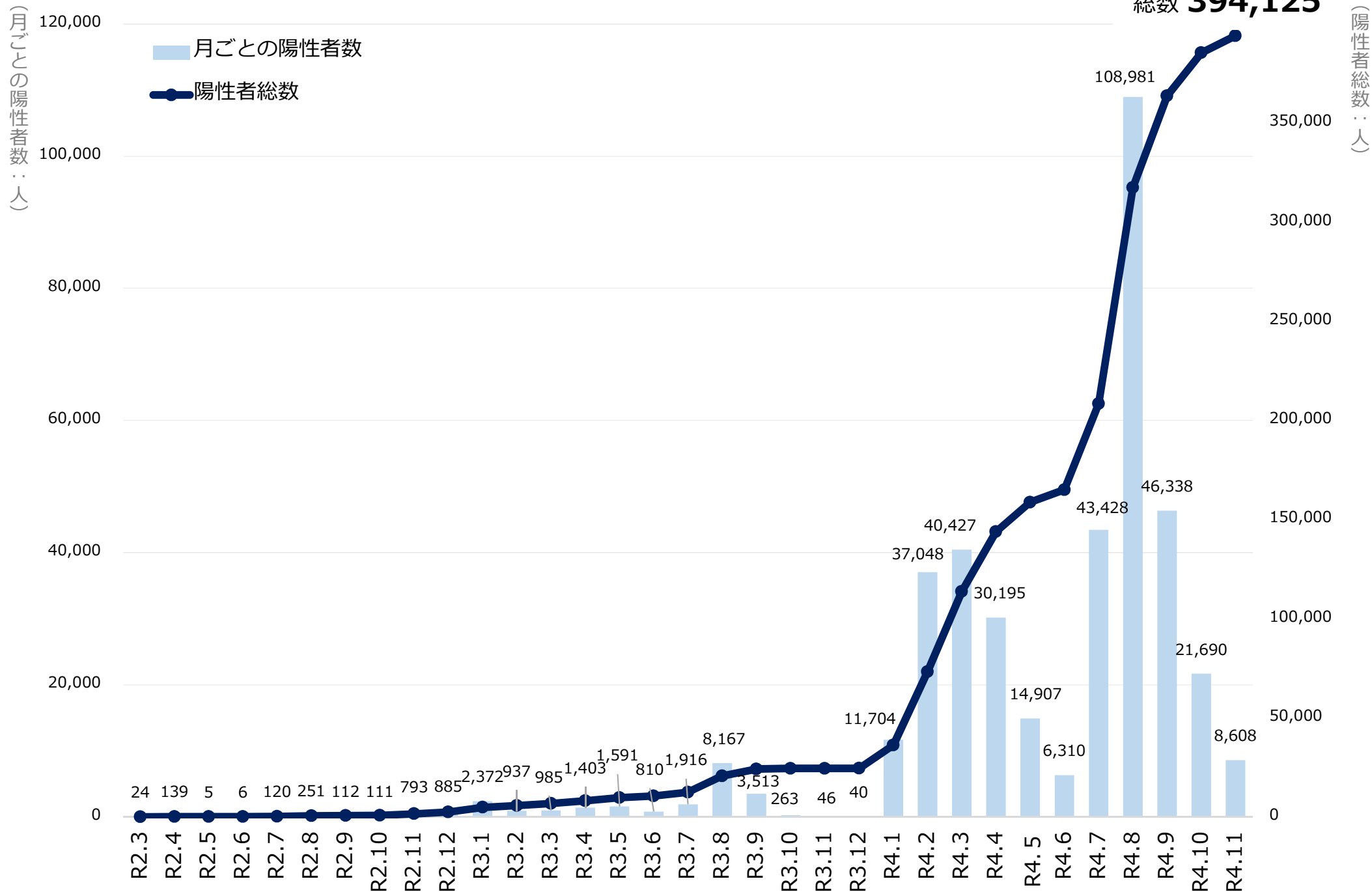
注4 治療については最新の新型コロナウイルス感染症診療の手引き（厚生労働省）を参考にすること

➤ 妊娠37週以降の妊婦の入院調整基準

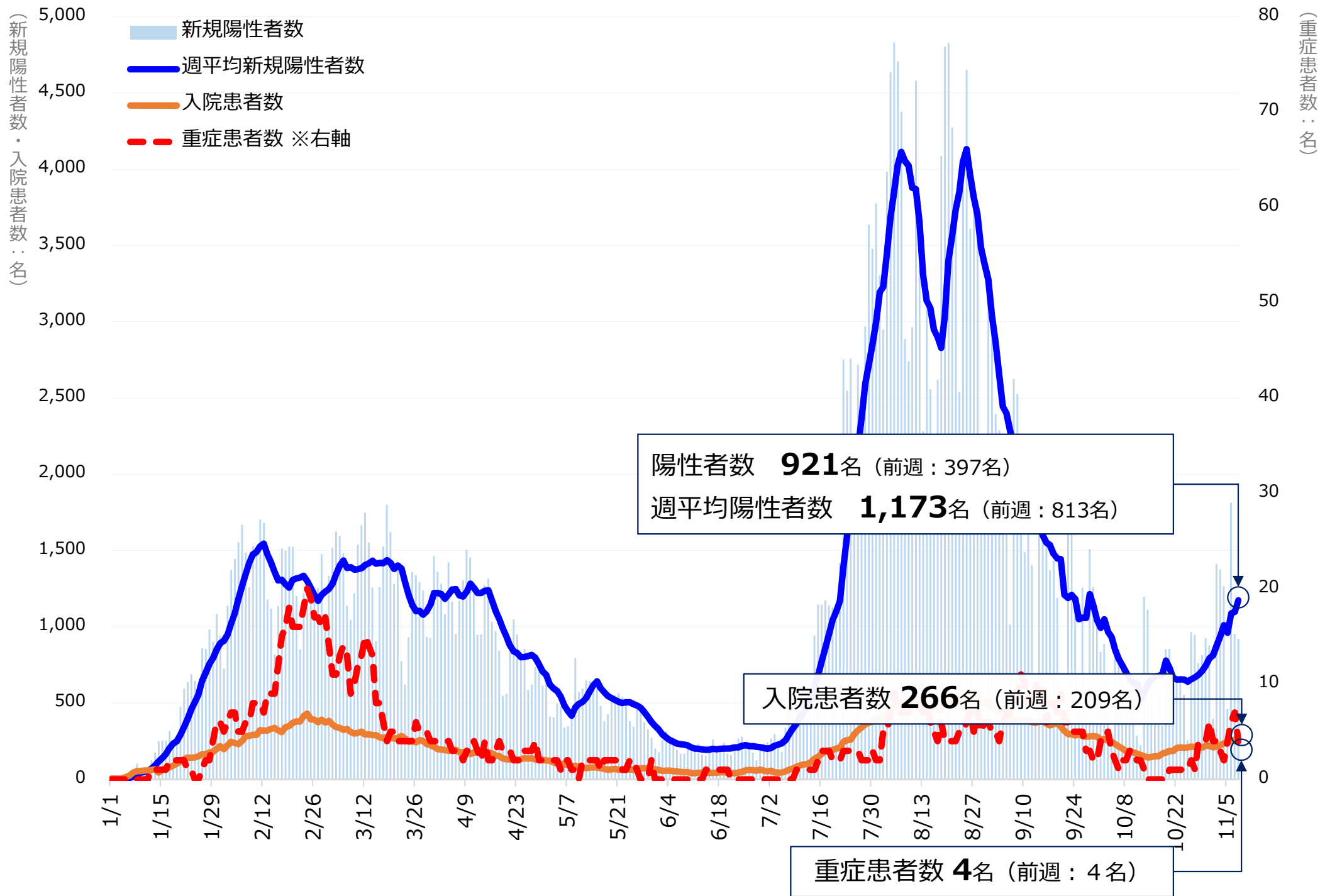
- 入院優先度を判断する基準として考慮する4項目に加え、バックアップ体制※の有無を確認し、入院の可否を総合的に判断する。

※療養期間中に分娩が必要となった場合に対応できる協力医療機関 など

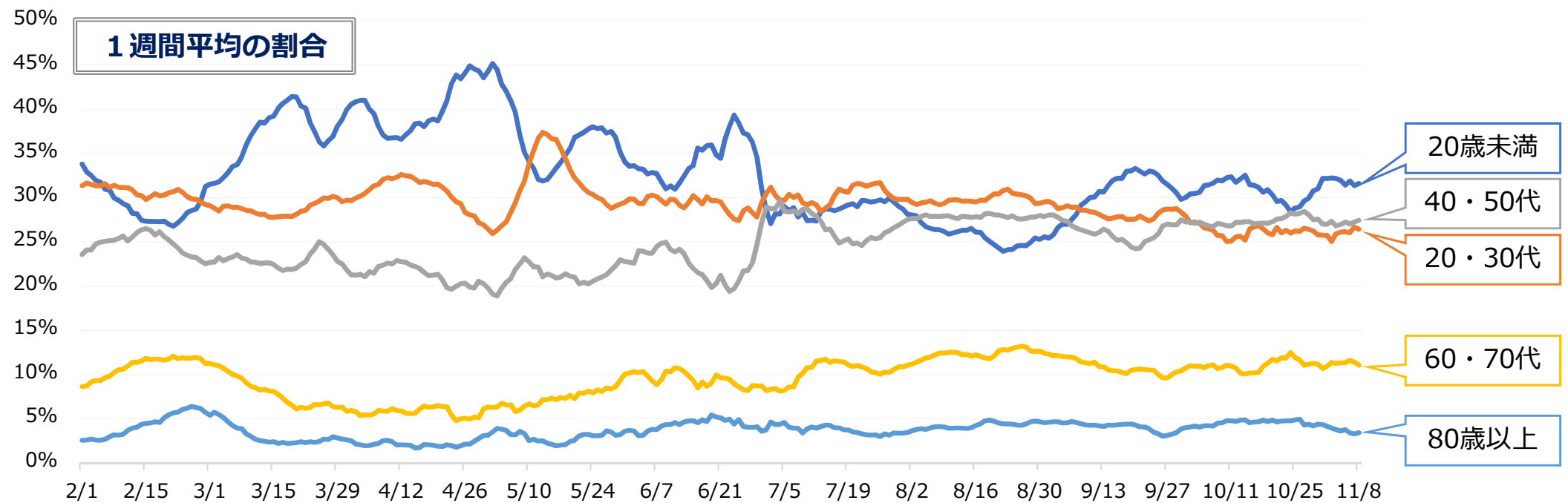
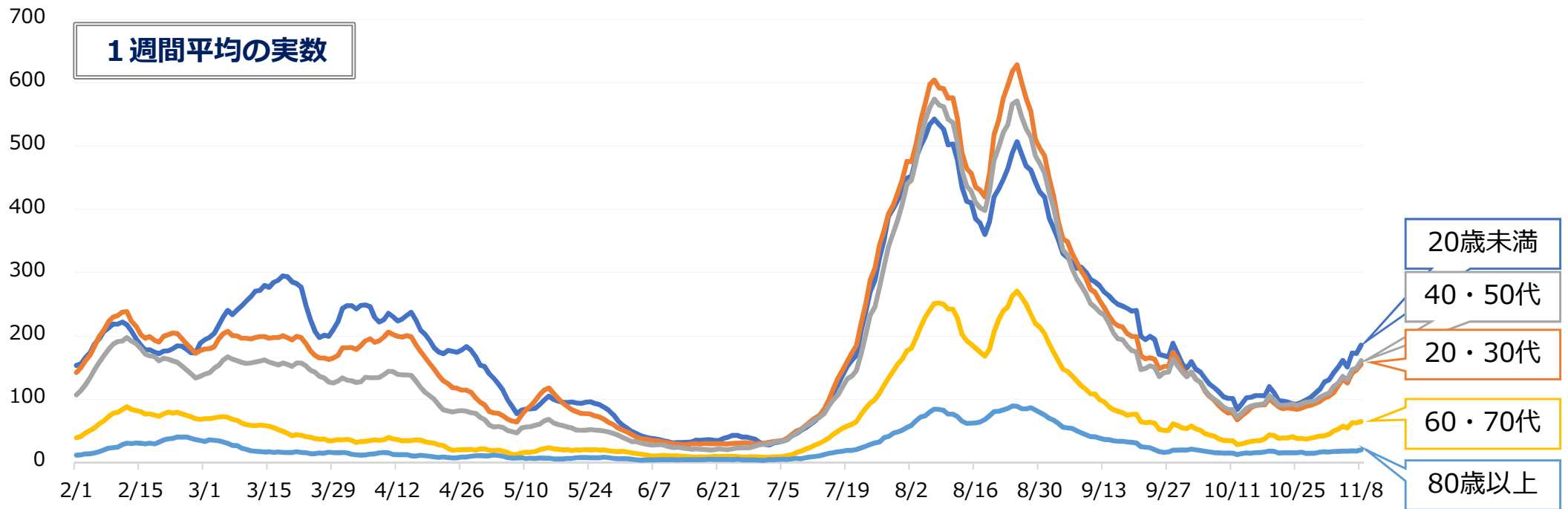
月別の新規陽性者数の推移 (11/8まで)



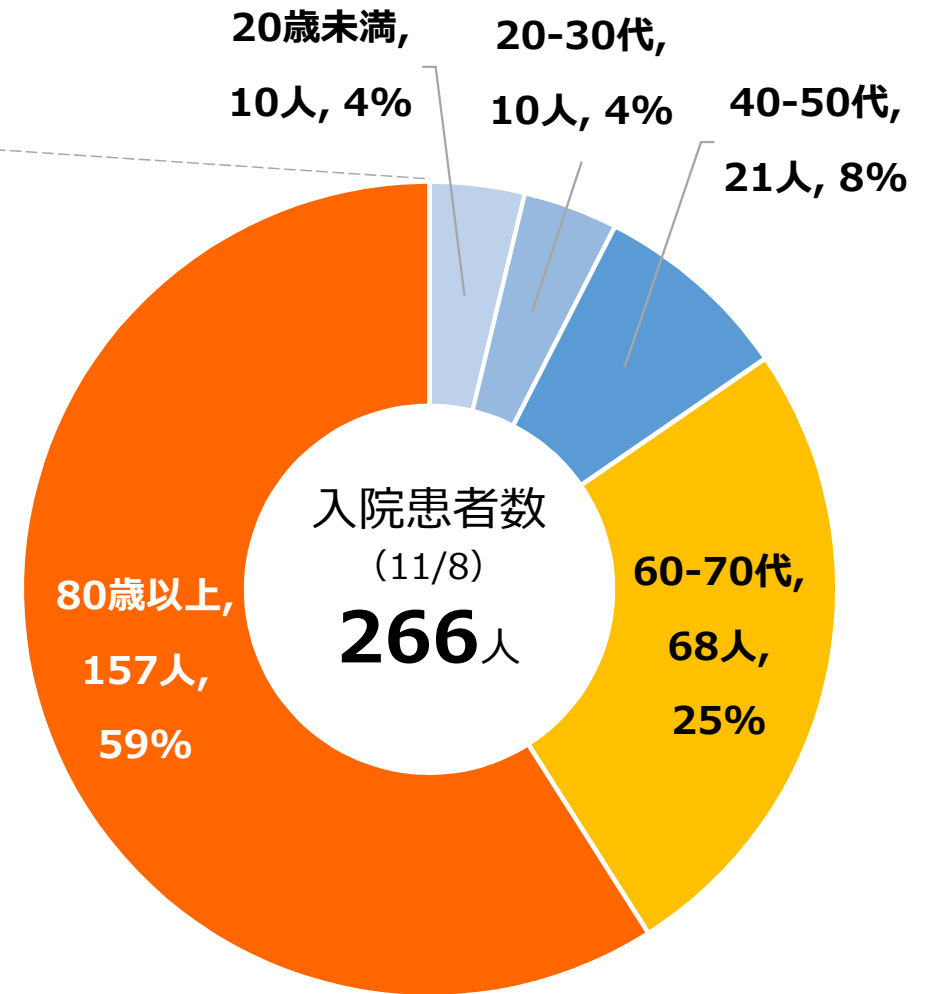
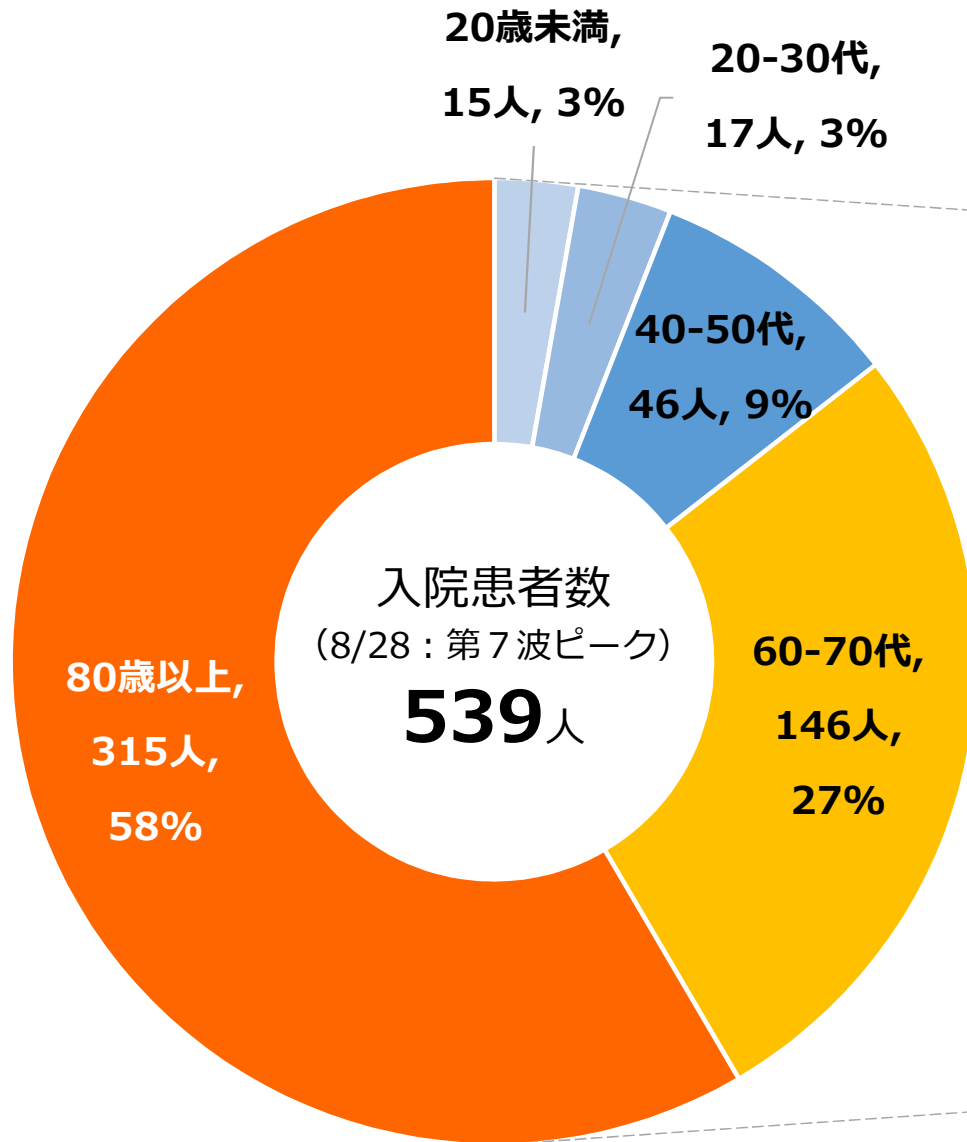
県内の新規陽性者数・入院患者数の推移 (1/1~11/8)



年代別の新規陽性者数の推移 (2/1~11/8、20歳刻み)

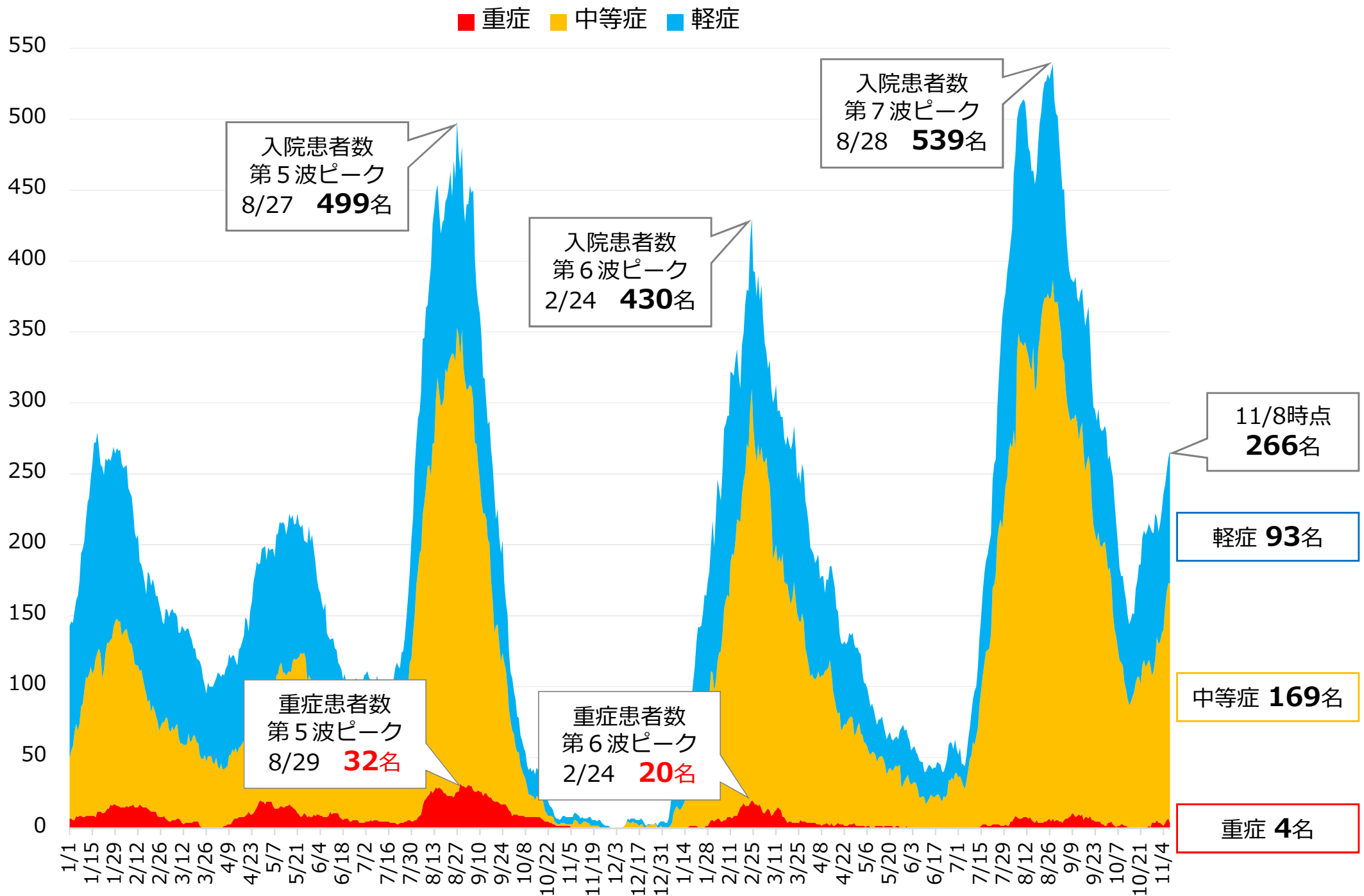


入院患者の年代別割合



入院患者は半減

症度別の入院患者数 (11/8時点)



第5波～第7波の重症化率の推移

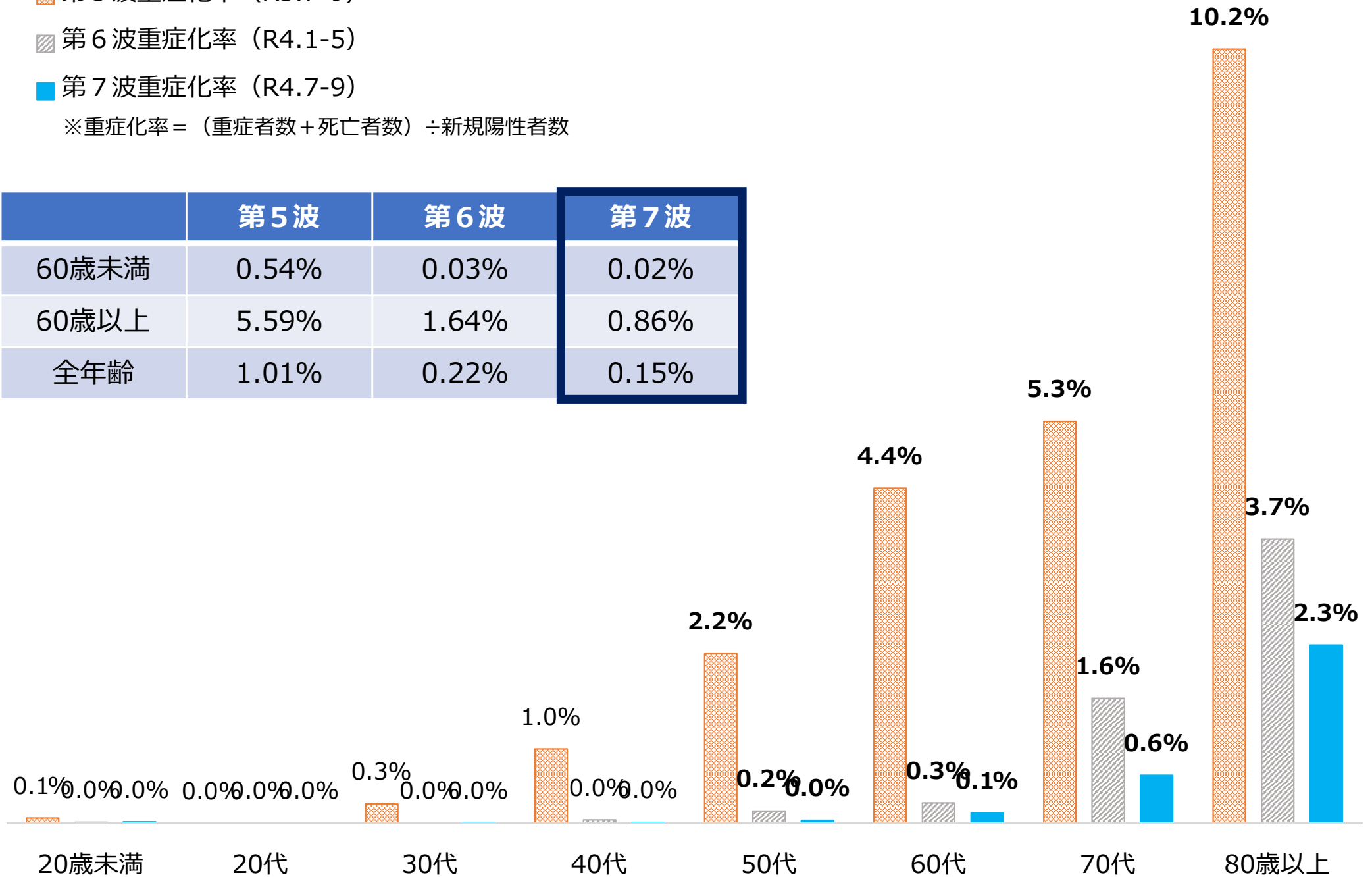
■ 第5波重症化率 (R3.7-9)

■ 第6波重症化率 (R4.1-5)

■ 第7波重症化率 (R4.7-9)

※重症化率 = (重症者数 + 死亡者数) ÷ 新規陽性者数

	第5波	第6波	第7波
60歳未満	0.54%	0.03%	0.02%
60歳以上	5.59%	1.64%	0.86%
全年齢	1.01%	0.22%	0.15%



新型コロナウイルスワクチン接種

ワクチン接種状況（2022.11.7現在）

全人口	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	オミクロン株 対応ワクチン
約289 万人	2,490,033回 (86.1%)	2,459,244回 (85.1%)	2,039,127回 (70.5%)	1,090,833回 (37.7%)	21,026回 (-)	238,234回 (8.2%)

※ 3回目・4回目・5回目には、オミクロン株対応ワクチン接種を含む。

国の動向

（1）接種期間の延長 令和5年3月31日まで

（2）乳幼児（生後6ヶ月～4歳）の接種

◇ 初回接種（1・2・3回目）の開始（10/24～）

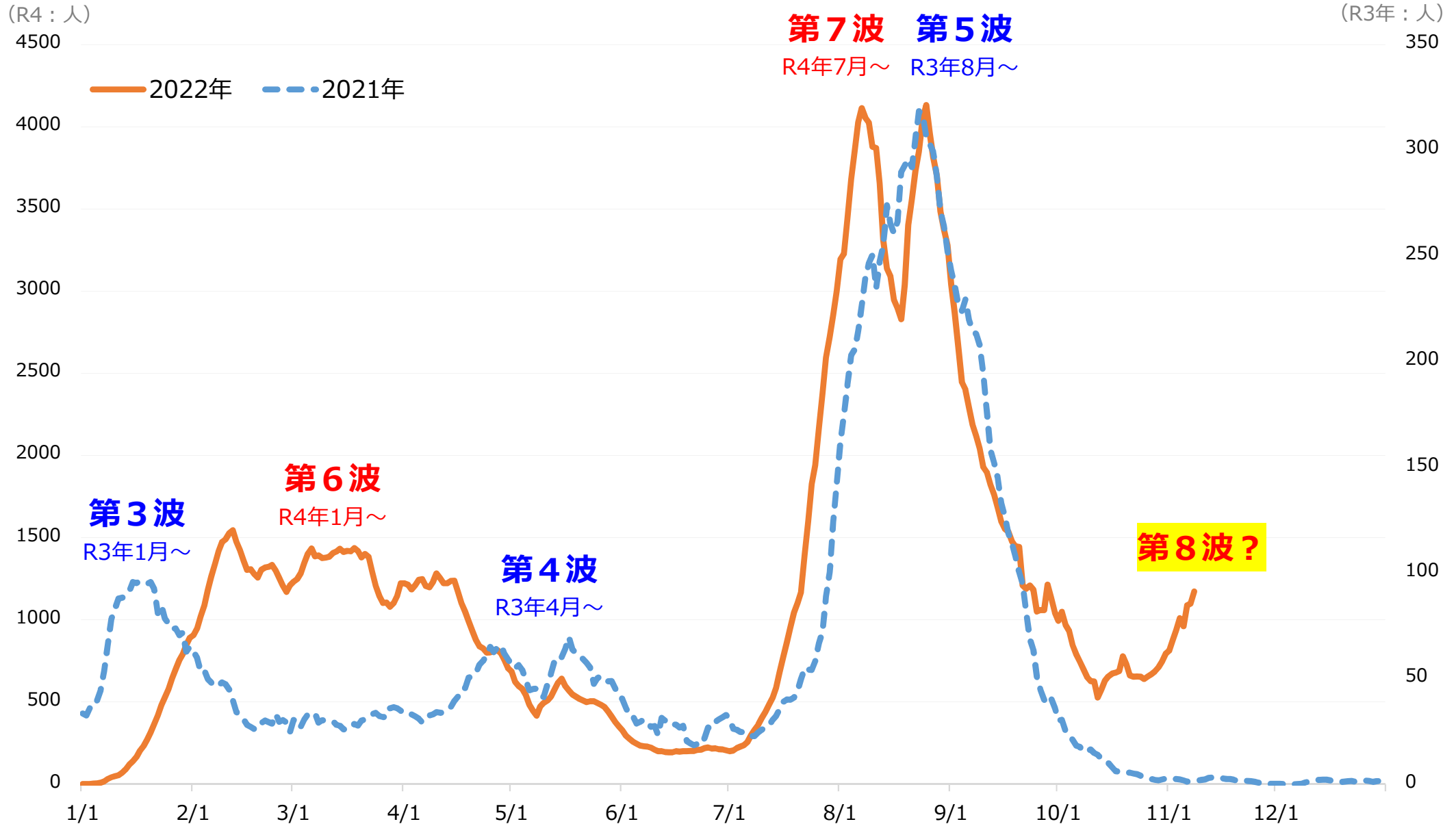
- ・ ワクチン ファイザー社乳幼児用ワクチン ・ 接種回数 3回
- ・ 接種間隔 2回目：3週間、3回目：2回目接種から少なくとも8週間経過後

（3）オミクロン株対応ワクチンの接種

- ◇ 接種間隔 最終の接種終了から5ヶ月 → 3ヶ月へ短縮（10/21～）
- ◇ 使用ワクチン オミクロン株と従来株に対応した2価ワクチン
- ◇ 接種回数 一人1回（BA.1対応型もしくはBA.4/5対応型のいずれかを1回）

今年 (R4年) 昨年 (R3年) との新型コロナの感染状況

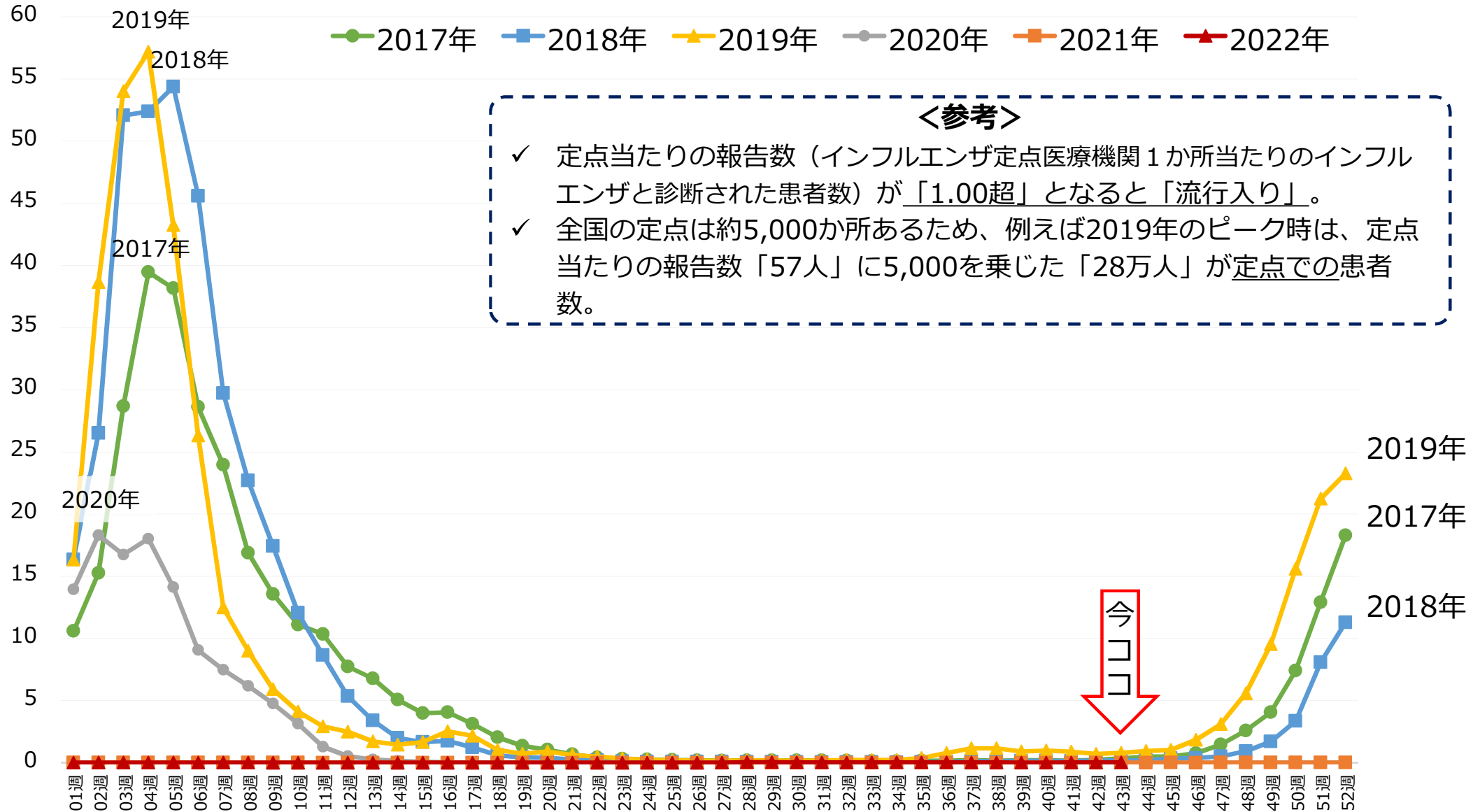
- 例年、冬場に感染拡大が見られるが、今年は昨年よりも早く再流行する可能性がある。
- 北海道・東北地方等ではすでに第6波を超え、北海道は第7波に迫る勢い。
- これまでの波では、流行入りから短期間でピークまで達したため、先手の対応が必要となる。



季節性インフルエンザの定点当たりの報告数 (全国の場合)

- 新型コロナが流行する（2021年1月）以前、**2018・19年は季節性インフルエンザが大流行**した。
- 新型コロナの流行以降、季節性インフルは流行していないが、今年**は**流行の可能性が指摘されている。
- 現在は流行の兆しが見られないが、**過去の例では、11月下旬頃から流行入り**している。

(定点当たりの報告数：人)



<参考>

- ✓ 定点当たりの報告数（インフルエンザ定点医療機関1か所当たりのインフルエンザと診断された患者数）が「1.00超」となると「**流行入り**」。
- ✓ 全国の定点は約5,000か所あるため、例えば2019年のピーク時は、定点当たりの報告数「57人」に5,000を乗じた「28万人」が**定点での患者数**。

今ココ